

日本語の過去・完了「タ」に対する中国語表現の考察 ——近現代の小説を資料として——

Japanese Preterit-Perceptive Auxiliary Verb 'ta'
and its Chinese Equivalents

李 永朋(国際理解教育領域)

I 課題設定

日本語母語話者にとって、中国語を学習するとき、テンスと所謂「タ」の訳は非常に難しいようである。筆者は7年間ほど日本語母語話者を対象にして、中国語の指導を行ってきた。よく質問されるのは「日本語の「タ」は一体中国語の何に当たるのか。」「中国語で過去を表現するときに動詞の後ろに“了”を付けるだけでいいのか。」ということである。実は、どちらにも答えにくい質問で、一言で説明できない質問である。中国語は文法形式としてのテンスをもたない言語で、日本語の述語がル形とタ形という文法的な形式対立のテンス表現に対応するものは中国語に存在しないとされている(木村 1982)からである。日本語の「タ」に対する中国語表現はどのようなものがあるかということを明らかにするため、この課題を研究することにした。

II 論文構成

第1章では、本研究の研究背景、研究目的について述べる。第2章では、本研究の基礎となる日本語の助動詞「タ」の意味・機能、過去・完了「タ」に関する研究、動詞の分類、中国語と日本語の対照研究などの先行研究を概観する。第3章では、本研究の考察内容、考察方法等の研究方法を説明する。第4章では、本研究の考察対象別で、それぞれの考察から得たデータを分析し、名詞述語、形容詞述語、動詞述語及び「テイタ」の文と分けて考察結果をまとめる。第5章では、動詞別に日本語の文末に用いる「タ」形を取り出し、対応する中国語過去形を明らかにする。また、先行研究についての検証も行う。第6章では、本研究のまとめを行い、考察から得た結論を日本の中国語教

育現場への示唆と今後の課題について論述する。

III 論文の概要

第1章 序論

中国語は文法形式としてのテンスをもたない言語で、日本語の述語がル形とタ形という文法的な形式対立のテンス表現に対応するものは中国語に存在しない(木村 1982)。それでは、文法形式のテンスともたない中国語は具体的にどのように時制を表しているのか、日本語のテンスの「タ」に対して、どんな表現があるのか。これについて明らかにしたい。

本研究の目的は、日本語の文末に使い、「今」という基準とした過去を示す「タ」の例文を多く集め、それに対する中国語表現を考察し、助動詞の「タ」に対応する中国語表現を明らかにしたい。アスペクトの「テイタ」にも簡単に触れてみようと思っている。これらの結果により、日本語母語話者の中国語学習者に両言語の時制のそれぞれ効果的な指導方法、学習方法を提案したい。本研究から得た結論を実際に日本における中国語教育に役立てることができたら幸いである。

第2章 先行研究

2.1 日本語の助動詞「タ」の意味と機能

本研究は日本語の過去・完了の「タ」に対する中国語表現を考察するが、日本語の助動詞である「タ」は複数の意味を持ち、多様な用法があるため、まず、辞書に見られる助動詞「タ」の意味と機能を見る。本研究は日本語の助動詞である「タ」について、『日本国語大辞典(第二版)第八巻』、『広辞苑(第六版)』と『大辞林(第三版)』を参考する。

助動詞「タ」の過去・完了の用法については、三つの辞書とも以下のように述べている。(1)動

作・作用が過去の事柄であることを表わす。(2) 動作・作用がちょうど完了したこと、また、その結果が現在継続していることを表わす。

2.2 日本語の過去・完了「タ」に関する先行研究

日本語の過去・完了「タ」についてはこれまで多くの研究がなされている。本稿は井上(2001)、寺村(1971)、工藤(2001)を参考し、日本語の述語を動詞述語、形容詞述語、名詞述語に分け、それぞれ対応する中国語の過去表現を考察し、分析を行った。

2.3 動詞の分類に関する先行研究

日本語の動詞分類について金田一(1947)と工藤(1995)が挙げられる。しかし、金田一(1947)の動詞分類をこれまで多くの研究者に批判されているため、本研究は新しい分類の工藤(1995)を従う。具体的な分類は以下の表1のようである。

表1 動詞分類 (工藤 1995)

分類	下位分類	例語
(A) 外的運動動詞	(A1) 主体動作・客体変化動詞	温める、染める、解く、出す、買う、ゆでる等
	(A2) 主体変化動詞	着る、落ちる、行く、つく、来る、死ぬ等
	(A3) 主体動作動詞	書く、会う、燃やす、住む、食べる等
(B) 内的状態動詞	(B1) 思考動詞	思う等
	(B2) 感情動詞	感心する等
	(B3) 知覚動詞	見える等
	(B4) 感覚動詞	疲れる等
(C) 静態動詞	(C1) 存在動詞	存在する等
	(C2) 空間的配置動詞	そびえる等
	(C3) 関係動詞	似る等
	(C4) 特性動詞	似合う等

2.4 中国語の過去表現に関する先行研究

中国語の過去表現に関する先行研究は張(2000)、劉(1987)、修(1989)を参考した。張(2000)は日本語の「タ」に対する中国語表現を5種類述べているが、本稿の考察でこれらの中国語表現を検証し、

それ以外にあるかどうかを考察により明らかにする。劉(1987)と修(1989)は日本語の「タ」と中国語の「了」の違いについて述べている。本稿でその結果への検証も行う。

2.5 本研究の位置づけ

中国語の過去表現に関する先行研究を踏まえて、近代小説を考察することによって、以下のことを明らかにしたい。

- (1) 近代小説において、日本語の文末の過去・完了「タ」、中国語の“了”の使用状況
- (2) 日本語の文末の過去・完了「タ」に対応する中国語の過去表現の種類
- (3) 日本語の述語タイプに従い、それぞれの述語の過去形に対応する中国語の過去表現
- (4) 工藤(1995)の動詞分類に従い、それぞれの動詞の過去形に対応する中国語の過去表現

第3章 研究方法

近代小説における中国語の過去表現の使用実態を把握するために、先行研究の章で言及した述語の分類及び動詞の分類に従い、3つの日本小説と3つの中国小説のそれぞれの日本語訳を考察対象に、文末に使用している過去・完了意味の「タ」、「テイタ」を取り出し、分析を行った。また、3つの日本小説と3つの中国小説において、「タ」あるいは「テイタ」に対応する中国語表現を取り出し、考察、分析する。

本稿は中国の小説と日本の小説をそれぞれ3小説選び、考察内容としたが、魯迅の『故郷』以外は長編小説で、過去・完了「タ」の数が大変多く、分析しきれないため、考察対象を以下のように指定し、考察を行った。

中国の小説：

- (1) 魯迅の『故郷』全文及び井上紅梅訳『故郷』全文
- (2) 池莉の『太陽出世』第1章～第5章及び田畑佐和子訳『太陽誕生』第1章～第5章
- (3) 余華の『活着』p1～p13及び飯塚容訳『生きる』p5～p20

日本の小説：

- (1) 村上春樹の『ノルウェイの森(上)』第1章及

び林少華訳『挪威的森林（全訳本）』第1章

(2) 森絵都の『宇宙のみなしご』第1章及び劉子亮訳『宇宙的孤儿』第1章

(3) 小川洋子の『博士の愛した数式』第1章及び李建雲訳『博士の愛情算式』第1章

まず、考察対象になっている日本語の文章を考察し、文末あるいは文中の「夕」を全て取り出す。

次に、日本語の述語を分類する。それから、それぞれの文が対応する中国語の文を取り出し、過去表現について考察・分析を行う。

また、工藤(1995)の動詞分類に従い、動詞別に日本語の過去・完了の「夕」に対応する中国語の過去表現について考察・分析を行う。

最後に、中国語の過去表現について、述語の種類別に考察、分析した結果と動詞の種類別に考察、分析した結果をまとめる。中国語の過去表現の形式と使い方を明らかにする。また、中国語の過去表現に関する先行研究の研究結果の検証も行う。

第4章 資料別分析結果

本研究は3つの日本小説と3つの中国小説のそれぞれの日本語訳を考察対象として、文末に使用している過去・完了意味の「夕」、「テイ夕」を取り出し、考察・分析を行った。また、3つの日本小説と3つの中国小説において、「夕」あるいは「テイ夕」に対応する中国語表現を取り出し、考察、分析した。6小説を考察した結果は、日本語は過去の事柄、過去の状態、過去の動作・作用、完了のことを表すなら、名詞述語も形容詞述語も動詞述語も、すべて過去形を用いることがわかった。一方、中国語は述語によって過去表現が違っている。名詞述語と形容詞述語は現在形で過去を表す。時制を判断するのは文中の時間を表わす語、前後の文脈、言語環境である。動詞述語は名詞述語と形容詞述語より複雑で、かつ多様である。本稿の考察から8種類の中国語過去表現が見られた。そのうち、6小説のうちの5小説から動詞基本形で過去の動作・作用を表すのが最も多く、全体の半分以上を占めていることがわかった。森絵都の『宇宙のみなしご』第1章及び劉子亮訳『宇宙的孤儿』第1章を考察し、他の5小説と違う結果が出た。

動詞基本形より動詞+“了”の過去形式が多く、全体の59%を占めている。

第5章 動詞意味別分析結果

第4章では、中国の小説と日本の小説をそれぞれ3小説及びそれぞれの日本語訳あるいは中国語訳を考察対象とし、名詞述語、形容詞述語、動詞述語という述語別に考察・分析を行った。この章では、先行研究の工藤(1995)の動詞分類に従って、動詞述語の中に現れた動詞をタイプ別に考察し、対応する中国語の過去表現を分析した。

工藤(1995)は動詞を外的運動動詞、内的状態動詞、静態動詞という三種類に分類し、それぞれの分類に更に下位分類を行っている。各種類の動詞が使われている例文を挙げ、中国語との対応について考察、分析を行った。しかし、日本語の動詞過去形に対応する中国語の過去表現は多様であり、規則が見られなかったという結果になってしまった。動詞の分類のしかたによって、また違う結果が出るのではないかと思われる。次回は違う動詞の分類に従い、再考察を行おうと思っている。

第6章 結論

第4章と第5章の考察・分析結果を以下のようにまとめる。

(1) テンスを表わす時、日本語は「形」で表わすが、中国語は意味を重視するうえで、過去の時間を表わすことば、副詞、助詞及び言語環境によって表わす。

(2) 名詞述語文の過去形式について、日本語は「名詞+だった」、「名詞+であった」で表わすが、中国語は現在形式と同じく、一般的に“是”を用いて表わす。

(3) 日本語にはイ形容詞とナ形容詞があり、過去形はそれぞれ「~かった」「~だった」である。一方、中国語は多くの形容詞は二つの品詞を用い、過去形式がなく、現在形で過去を表わす。“形容詞+了”の形式があるが、状態の変化を表わす。

(4) 動詞述語文については、日本語は非常に単純で動詞の過去形を用い表わすが、中国語の動詞過去表現が多様である。本稿の考察では“動詞基本形”、動詞+“了”、動詞+“了・・・了”、動詞+補語、

動詞+“过”(“过了”)、動詞+“着”、動詞+“啦”、“是”+動詞+“的”(“是”は省略できる)という8種類の過去表現が見られた。この結果は先行研究とはほぼ一致しているが、動詞+“啦”は本稿の考察からわかった新たな過去表現である。また、8種類のうち、“動詞基本形”で過去を表わす形式が最も多かった。

(5)中国語の動詞には補語と一緒に現れることが多いのが特徴である。

(6)中国語の過去表現は動詞の種類による影響が見られなかった。しかし、存在動詞は“動詞基本形”で過去を表わすことが分かった。

本研究は小説を資料として考察した結果から、中国語の過去表現が多様であることが判明した。特に動詞述語の過去表現は、個人差と言語環境などの影響がある。そのため、得られた結論は日中両言語の違いの全てとは言いがたいと思われる。今後は、本研究の結論に基づいて、会話データなどの話し言葉も考察しようと思っている。また、本研究は文末の過去・完了の「タ」だけに注目したが、今後は「タ」の他の用法にも広げていきたいと思っている。

IV 主要参考文献

使用テキスト

- 魯迅(1921) 「故乡」『呐喊』《新青年》第九卷第一号
- 井上 紅梅訳(1932) 「故郷」『魯迅全集』改造社
- 池 莉(1992) 「太陽出世」『一冬无雪/池莉文集2』江苏文艺出版社
- 田畑 佐和子訳(1994) 「太陽誕生」『新しい中国文学5』早稲田大学出版部
- 余 華(1992) 『活着』作家出版社
- 飯塚 容訳(2002) 『活きる』株式会社角川書店
- 村上 春樹(2007) 『ノルウェイの森(上)』株式会社講談社
- 林 少華訳(2005) 『挪威的森林』上海世紀出版集團 译文出版社
- 森 絵都(2006) 『宇宙のみなしご』株式会社理論社

- 劉 子亮訳(2007) 『宇宙的孤儿』鳳凰出版傳媒集團 译林出版社
- 小川 洋子(2004) 『博士の愛した数式』株式会社 新潮社
- 李 建雲訳(2005) 『博士的爱情算式』人民文学出版社

参考文献

- 井上 優(2001) 「現代日本語の「タ」—主文末の「・・・タ」の意味について」『「た」の言語学』ひつじ書房
- 木村 英樹(1982) 「テンス・アスペクト:中国語」『講座日本語学11-外国語との対照II-』明治書院
- 金田一 春彦(1947) 「国語動詞の一分類」『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 工藤 真由美(1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房
- (2001) 「述語の意味類型とアスペクト・テンス・ムード」『言語』Vol. 30 NO. 13 (通号 364) 大修館書店
- 寺村 秀夫(1971) 「‘タ’の意味と機能——アスペクト・テンス・ムードの構文的位置づけ——」『言語学と日本語問題』くろしお出版
- 福田 嘉一郎(2001) 「「タ」の研究史と問題点」『言語』Vol. 30 NO. 13 (通号 364) 大修館書店
- 劉 凡夫(1987) 「日本語の「タ」と中国語の「了」の対照研究—動詞への接続を中心に」『国語学研究』通号 27 東北大学
- 修 剛(1989) 「日中両語の動詞のテンス・アスペクトに関する一考察—「タ」形と「了」形の対照比較を中心に」『神戸外大論業』V01. 40 NO5
- 張 継英(2000) 「日本語の「タ」と中国語の「了」との相違」『日本と中国ことばの梯』佐治圭三教授古稀記念論文集編集委員会

辞書類

- 広辞苑第六版(2008)岩波書店
- 大辞林第三版(2006)三省堂
- 日本国語大辞典第二版第八卷(2001)小学館